



よろい

甲を着た古墳人だより



公益財団法人
群馬県埋蔵文化財調査事業団

けんびしがたぎょうよう

剣菱形杏葉の発見

平成 25 年 11 月 14 日、「甲を着た古墳人」から北西 70 m ほどに位置する 42 号住居の北西部の周堤上から、馬を飾る馬具の一種である「剣菱形杏葉」が、須恵器大甕の破片とともに 1 点出土しました。この剣菱形杏葉は、6 世紀初頭の榛名山の噴火で堆積した Hr-FA の火砕流堆積物の中から出土していることから、火砕流によって西から流されたものと考えられます。剣菱形杏葉は、福岡県の^{おきのしま}沖ノ島祭祀遺跡や馬の埋葬土坑などから出土した例を除くと、古墳の副葬品として出土する例が大半ですので、今回のような場所からの出土は極めて珍しい例です。榛名山が噴火したときに西側の場所に馬具を装着した馬がいたのか、または馬具を保管していた場所が壊された結果なのかは謎のままです。



古墳時代の甲冑をモチーフにしたキャラクター

近くにある 42 号住居も Hr-FA によって埋もれていた。



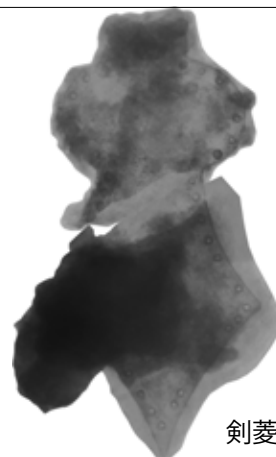
剣菱形杏葉の出土状況

剣菱形杏葉は、飾り馬の胸や尻を飾る馬具です。扁円（楕円）部と剣菱部からなり、扁円部には革帯に留めるための立間があります。大きさは、長さ19cm、最大幅10cmです。鉄の地板に、鉄製の縁金を重ね、その上から金メッキした銅板を被せて、鋳で留めています。



剣菱形杏葉

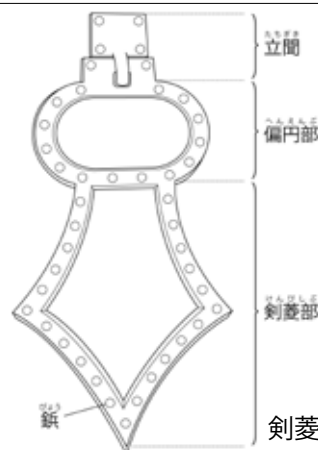
剣菱形杏葉は、全国で100点以上の出土例があり、5世紀中頃から6世紀中頃に築造された古墳の副葬品として出土しています。「f字形鏡板付轡」と呼ぶアルファベットの「f」字形の板を取り付けた轡と一緒に出土することが多く、セットとして各地に配布されたものと考えられています。



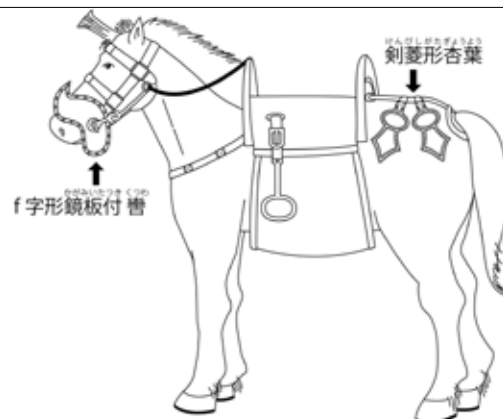
剣菱形杏葉のX線写真

群馬県では、次の6基の古墳から出土した例が知られています。高崎市の保渡田古墳群の井出二子山古墳・保渡田八幡塚古墳、下芝谷ツ古墳、天宮古墳、前橋市の大室古墳群の前二子古墳、伊勢崎市の恵下古墳の6例です。そのうち、天宮古墳、下芝谷ツ古墳と恵下古墳を除く3つの古墳は、全長が100mを超える前方後円墳であり、剣菱形杏葉は地域の有力者の持ち物とみてよいものです。

有力者の持ち物とする点では小札甲と同じ性格を有するものです。金井東裏遺跡には小札甲や剣菱形杏葉を所有することができるような、上位階層の有力者が居た可能性が高いこととなります。



剣菱形杏葉模式図



剣菱形杏葉の着装想定図